

2016 年度 K I P P 対人関係精神分析セミナー

ご あ い さ つ

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より KIPP 対人関係精神分析セミナーに温かなご支援とご理解をいただき、厚く御礼を申し上げます。本セミナーも今年度で 13 年目を迎えました。そしてまた一年、たゆまぬ努力を積み重ねていく所存であります。今後とも皆様の変わらぬご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて今年度は、「愛着と対人関係精神分析」というテーマで、発達段階やクライアントの愛着と精神分析との関連について取り上げることにいたしました。今年もまた KIPP の講師陣だけではなく、それらのテーマについて造詣の深い他学派からの講師もお迎えして、多角的で立体的な議論を行っていきたいと考えています。

また、多くの方からご要望をいただいた基礎セミナーについては、5 回のシリーズ・セミナーに先立って、「精神分析的心理療法の基礎セミナー」として開催いたします。こちらも是非とも皆様のご参加をお待ちしています。

本セミナーでは、講師の方々だけではなく、参加される皆様とのあいだでの活発な対話が行われることを通して、多方向から新たなアイディアがもたらされることを目指しています。そしてその学びが、私たちの日々の臨床の現場への貢献となることを期待しています。

どうか多数の皆様のご参加をいただけますよう、心よりお待ち申し上げます。

京都精神分析心理療法研究所 研修委員長 横 井 公 一

連絡先：一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会

〒612-8083 京都市伏見区京町 4 丁目 156 番地 1 桃山ビル 3F

KIPP 桃山心理オフィス内

Tel & Fax : 075-623-0823 e-mail : info@kippsyoto.org

ホームページ <http://kipp-limited.jp>

2016 年度対人関係精神分析セミナー

Bowlby はある特定の人物へ物理的に近づくことによって、心理的な安定を確保する情緒的な結びつきを愛着 attachment と呼び、それを普遍的な心理現象だとみなしました。そして養育者との関係のみに限定されない、生涯発達において絶えず更新されていくものであると主張しました。

愛着という概念で提示された対人的環境の重要性、および行動科学的な側面を持つ理解は、当時の精神分析において大きな反発を受けることとなりました。久しく精神分析は、個人の内的衝動と空想を優位に置き、現実の対人関係を劣位に置く階層性のある二項対立のなかで考えられる傾向があったためです。実際の対人関係を重視し過ぎている、という批判を受けてきた点では、精神分析における対人関係学派も同様でした。個人と他者との関係が相互に影響しあっており、対人関係の場にも依存する解放系としての心という視点は、あまり強調されなかったのです。

しかし精神分析内部における関心の移行と Fonagy の登場により、近年、愛着の理論は精神分析と積極的に接続が試みられるようになってきました。Bromberg など関係精神分析的な感性を共有する分析家においても、愛着理論は大きな位置を占めています。関係精神分析を主導した Mitchell が最後の著作で取り上げたのは、間主観性と愛着に関するテーマでした。

今年度の対人関係精神分析セミナーは、「愛着と対人関係精神分析」と題して 5 回シリーズで行います。愛着をキーワードに、対人関係学派を中心とした精神分析的な心理療法を学びます。現在、心理臨床に関わる専門家の職域は、医療、教育、福祉、産業、司法など多岐にわたりますが、これらの関係的な精神分析の考え方は、様々な臨床現場での実践に活かせるのではないのでしょうか。

また、この「愛着と対人関係精神分析」シリーズを始める前に、今年度も精神分析的な心理療法に関心のある方、心理療法の初学者を対象に「精神分析的な心理療法の基礎セミナー」も 1 回行います。精神分析的な心理療法はセラピスト自身の主観的な体験も組み込んだ援助であると言えます。日々臨床実践する講師による基礎からの講義は、馴染みのない方にとっても、これからの学習への導入になると考えています。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお本セミナーは各回とも、臨床心理士の研修ポイントに申請予定です。

日程・プログラム

日程	講師	講義テーマ
「精神分析的心理療法の基礎セミナー」		
2016年 5月15日 (日) 午前11時～午後5時 会場：キャンパスプラザ京都	馬場 天信 今井 たよか	精神分析的心理療法の基礎

日程	講師	講義テーマ
「愛着と対人関係精神分析」		
① 2016年 7月10日 (日) 午前11時～午後5時 会場：キャンパスプラザ京都	北川 恵 川畑 直人	愛着理論と対人関係精神分析
② 2016年 9月11日 (日) 午前11時～午後5時 会場：キャンパスプラザ京都	森 さち子 吾妻 壮	間主観性
③ 2016年 11月20日 (日) 午前11時～午後5時 会場：未定	北村 隆人 鈴木 健一	思春期・青年期
④ 2017年 1月22日 (日) 午前11時～午後5時 会場：未定	池田 暁史 横井 公一	メンタライゼーション
⑤ 2017年 3月5日 (日) 午前11時～午後5時 会場：未定	岡野 憲一郎 鑪 幹八郎	スペシャルトピック： 恥とアモルファス自我

- ◇ **会場**：キャンパスプラザ京都、メルパルク京都等を予定しております。
(未定分につきましては、決まり次第ホームページ <http://kipp-limited.jp> に掲載します。申し込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします。)
- ◇ **定員**：90名程度
- ◇ **受講料**： セッションごとの申し込み

一般 7,000円 学生 6,000円

 「愛着と対人関係精神分析」シリーズ申し込み(全5回)

一般 30,000円 学生 25,000円

■ タイム・スケジュール

第一講義	昼食	第二講義	休憩	事例検討
11:00 ～ 12:30	12:30 ～ 13:20	13:20 ～ 14:50	14:50 ～ 15:00	15:00 ～ 17:00

◇ 「精神分析的心理療法の基礎セミナー」 ◇

2016年5月15日（日）

「導入期における関係性のアセスメント」

講師 馬場 天信

精神分析および精神分析的心理療法の実践では、過去の親子（家族）関係、現在の対人関係、そして治療関係について連続性をもって捉えることが必要となる。特に、クライアントが過去から反復してきた対象関係、対人関係パターンを導入期に理解しておくことは、その後の転移関係や治療関係を考える上で最も重要なことだと言える。本講義では、導入期の治療関係を基盤にして、クライアントの転移関係や転移外での対人関係のパターンをどのようにアセスメントしていったらよいのか、学派にとらわれずに幅広く理解することを目指す。

★参考テキスト

- N. マックウィリアムズ著／成田善弘他訳（2006）『ケースの見方・考え方—精神分析的ケースフォーミュレーション』創元社
- J. サンドラー他著／藤山直樹他訳（2006）『患者と分析者』誠信書房
- S. A. ミッチェル著／鑪幹八郎他訳（1998）『精神分析と関係概念』ミネルヴァ書房

「精神分析的心理療法のプロセス、その停滞と進展」

講師 今井 たよか

精神分析的心理療法は、船で海を渡ることには似ている。それは、いったん始まると合理的・直線的に進展するのではなく、平穏であったり、停滞したり、時には嵐のようなうねりが生じたりする中を、思わぬ変化や地道な成長を重ねて進んでいく。その複雑なプロセスを乗り切っていくためには、3つの技法原則（中立性、匿名性、禁欲）や転移・逆転移、抵抗といった精神分析の基礎概念の体験的理解を深め続けることが重要であると思われる。本講義では、面接中期のプロセスを取り上げ、その停滞と進展に関わる諸要因を、特に逆転移とエナクトメントを中心に検討する。

★参考テキスト

鑪幹八郎監修, 一丸藤太郎他編著 (1998) 『精神分析的な心理療法の手引き』 「第 5 章 面接中期から終結まで」 誠信書房

G.O. ギャバード著/狩野力八郎監訳, 池田暁史訳 (2012) 『精神力動的な精神療法 基本テキスト』 「第 6 章 抵抗に取り組む」 「第 8 章 逆転移を見定め、取り組む」 岩崎学術出版社

◇ 「愛着と対人関係精神分析」 ◇

第 1 回 2016 年 7 月 10 日 (日) 『愛着理論と対人関係精神分析』

「アタッチメント理論と親子関係支援」

講師 北川 恵

児童精神科医であった Bowlby が提唱したアタッチメント理論は、まず発達心理学領域で注目されて膨大な実証研究が蓄積された。近年、研究と臨床実践の橋渡しをするものとして、アタッチメント理論が臨床領域から高い注目を集めている。セミナーでは、まずアタッチメント理論と代表的な実証的測定法（観察法、面接法）を紹介する。次に、アタッチメント理論に基づく親子関係支援である the Circle of Security program (COS)、「安心感の輪」子育てプログラム (the Circle of Security Parenting program; COS-P) (Powell, Cooper, Hoffman & Marvin, 2014) について紹介する。最後にこうしたプログラムの有効な点を、より一般的な臨床実践に応用する可能性について検討したい。

★参考テキスト

数井みゆき編著 (2012) 『アタッチメントの実践と応用』 誠信書房

Powell, B., Cooper, G., Hoffman, K. & Marvin, R. (2014) The Circle of Security Intervention. New York, Guilford.

「サリヴァン理論が愛着理解に及ぼす影響」

講師 川畑 直人

ボウルビィの愛着理論とサリヴァンの対人関係論は、ともに、乳児を「快」ではなく「関係」を希求する存在として描き出し、フロイトの欲動論からの脱却・転換をけん引したという点で共通性を持っている。しかし、サリヴァンの対人関係論には、ボウルビィの愛着理論とは、趣を異にする面もあり、それらは生涯にわたる精神発達の理解にとって役に立つ。この講義では、サリヴァンの言葉にこだわらず、愛着の様々な側面を理解するために、サリヴァン理論を拡充する形で活用してみたい。

第 2 回 2016年9月11日（日） 『間主観性』

「間主観性の臨床」

講師 森 さち子

間主観性理論とは、ストロロウによれば「二つの主観性—患者のそれと治療者のそれ—の交差が構成する特定の心理的な場において起こる現象を解明しようとする、精神分析のメタ理論」である。間主観的な立場からオレンジは、どんな時も「関係性の外側には立てない」と明言する。また、その視点からジェニキーは、「湖面のさざ波を見る時、われわれに見えているものは、風か？ それとも湖水か？」と問いかける。

抽象的になればなるほど難しく感じられる「間主観性理論」は、どのように心理臨床の実際に生かされるか。主観と主観の、極めて複雑な情緒の交わりをめぐる臨床体験に基づいて、考察したい。

★参考テキスト

丸田俊彦（2002）『間主観的感性』岩崎学術出版社

丸田俊彦、森さち子（2006）『間主観性の軌跡』岩崎学術出版社

C. ジェニキー／丸田俊彦監訳（2014）『関わることのリスク』誠信書房

「対象関係、対人関係、間主観性」

講師 吾妻 壮

対象関係と対人関係は異なる概念であるが、それがどのように異なり、どのように関連しているのかは分かりにくい。そこに間主観性という概念が加わるとさらに状況は錯綜する。本セミナーでは、まずこれらの概念的整理を行い、さらにそれぞれの概念の臨床的意義について論じる。その上で、精神分析が間主観的関わりの枠組みの中での精神内界的な作業であり、同時にまた精神内界的な枠組みの中での間主観的作業でもあるという可能性を示したい。

★参考テキスト

P. M. ブロンバーグ／吾妻壮他訳（2014）『関係するところ』誠信書房

第 3 回 2016年11月20日（日） 『思春期・青年期』

「思春期臨床の基本をあらためて考える」

講師 北村 隆人

今回は、思春期臨床の基本を参加者と共有するために、以下の三つのパートにおいて講じる予定である。まず思春期心理について重要な主張を行った精神分析家を数人とりあげ、彼らが以下の二つの論点—1) 思春期において、人のところはどのように成長をとげ、成熟へと向かうのか、2) その過程が順調に進展するためには、どのような環境や支援が必要なのか—について示した見

解を確認する。次いで、Bionによる思考の生成論を前提とする立場から、彼らの見解をあらためて評価し、最後に以上の理論的検討を踏まえ、日本の思春期臨床の実情の中で、治療者は何を目指し、どう支援すべきなのか、その大きな方向性を示したい。

「青年期の心の発達と親への愛着」

講師 鈴木 健一

親との愛着に問題を抱えた青年との心理療法では、セラピストが青年との間で、愛着をいかにして形成していくかが鍵であるように思う。このことを、親からの自立を試みる学生、親との愛着を確認しようとする学生、発達障害傾向をもつ学生などの事例を紹介し、エーレンバーグの「親密の極み」という概念を用いて、愛着を育むセラピストの関わりについて考えてみたい。

★参考テキスト

S. A. ミッチェル著／鏑幹八郎他訳（1998）『精神分析と関係概念』ミネルヴァ書房
Ehrenberg, D. B. (1992) The Intimate Edge. New York, Norton.

第 4 回 2017年1月22日（日） 『メンタライゼーション』

「愛着理論とメンタライゼーション」

講師 池田 暁史

ピーター・フォナギーらによって心理療法の世界に導入されたメンタライゼーションは、精神分析の申し子であり、愛着理論の落とし子であり、神経科学の隠し子といえる。そこには確かに、未来に向けた精神分析的な心理療法の可能性がある。今回の講義では、精神分析と愛着理論とを比較しながら、そこに橋を架けるものとしてのメンタライゼーション理論について解説したい。

★参考テキスト

J. G. アレン, P. フォナギー編／池田暁史訳（2006）『メンタライゼーション・ハンドブック』岩崎学術出版社

J. G. アレン, P. フォナギー & A. W. ベイトマン／上地雄一郎他訳（2008）『メンタライゼーションの理論と臨床』北大路書房

「治療作用therapeutic actionとしてのメンタライゼーション」

講師 横井 公一

メンタライゼーションは、愛着理論や発達精神病理学にその起源をもち、境界性パーソナリティ障害の治療のために開発された MBT (mentalization-based treatment) で技法として結実し、さらには様々な疾患や障害の治療にも応用されてきている。また、われわれはことさら技法としてメンタライゼーションを用いるばかりではなく、日常生活のなかでごく自然にメンタライゼーションを

行っている。もしも精神分析的心理療法において治療作用の概念が、解釈から関わることにまで拡張して考えられるならば、メンタライゼーションもまた治療作用として位置づけられるかもしれない。臨床素材をもとにして、その点について考察してみたい。

★参考テキスト

P. フォナギー, M. タルジェ著／馬場禮子, 青木紀久子監訳 (2013) 『発達精神病理学からみた精神分析理論』岩崎学術出版社

J. G. アレン, P. フォナギー & A. W. ベイトマン著／狩野力八郎監修, 上地雄一郎ら訳 (2014) 『メンタライジングの理論と臨床』北大路書房

第 5 回 2017 年 3 月 5 日 (日)

『スペシャルトピック：恥とアモルファス自我』

「恥と自己愛の精神分析」

講師 岡野 憲一郎

恥と自己愛の問題は、私たちの精神生活にとって極めて重要でありながら、これまで十分に注意が向けられずにいた。本講義では精神分析的な文脈から見た恥と自己愛について、特に怒りやトラウマの文脈から論じるとともに、一般心理学で扱われる自尊感情や承認欲求との関連についても触れたい。

★参考テキスト

岡野憲一郎 (1998) 『恥と自己愛の精神分析理論』岩崎学術出版社

岡野憲一郎 (2014) 『恥と自己愛トラウマ』岩崎学術出版社

「恥：アモルファス自我構造から見えるもの」

講師 鑪 幹八郎

恥の主題は精神分析においても、あまり扱われていない。しかし、発達的に見ると、二者関係が鮮明になり、肛門期的な自主・自発性の形成時期に発現する深い自己感覚を否定する情動である。また、自己愛の形成に深くかかわっている。保持が困難な強い情動であるので、幾重にも防衛的な働きが形成される。日本では重要な対人関係パターンとなり、文化レベルでの特異性を示している。日本での精神分析の臨床には、かなり大きな主題として展開すると私は考えている。アモルファス自我構造という観点から理解を進めてみたい。

★参考テキスト

鑪幹八郎 (1998) 『恥と意地』講談社現代新書

E. H. エリクソン／仁科弥生訳 (1980) 『幼児期と社会 1, 2』みすず書房

講師紹介（アルファベット順）

吾妻 壮 Agatsuma, Soh

精神科医・医学博士・精神分析家・国際精神分析協会（IPA）正会員

所属：神戸女学院大学

著書：『関係精神分析入門』（共著、岩崎学術出版社）

訳書：P.M. ブロンバーグ『関係するところ』（誠信書房）、J.リア『開かれた心』（里文社）、
B. ビービー他『乳児研究から大人の精神療法へ—間主観性さまざま』（岩崎学術出版社）

馬場 天信 Baba, Takanobu

臨床心理士・博士（心理学）・KIPP 認定精神分析的な心理療法家

所属：追手門学院大学

池田 暁史 Ikeda, Akifumi

精神科医・臨床心理士・博士（医学）

所属：文教大学

著書：『自我心理学の新展開』（分担執筆、ぎょうせい）、『臨床医のための精神科面接の基本』（共著、新興医学出版社）他

訳書：A. ベイトマン・P. フォナギー『メンタライゼーションと境界パーソナリティ障害』（共訳）、J.G. アレン・P. フォナギー編『メンタライゼーション・ハンドブック』、R. ケイパー『米国クライン派の臨床』（共訳）、G.O. ギャバード『精神力動的な精神療法—基本テキスト』（いずれも岩崎学術出版社）

今井 たよか Imai, Tayoka

臨床心理士・KIPP 認定精神分析的な心理療法家

所属：あるく相談室京都

川畑 直人 Kawabata, Naoto

臨床心理士・教育学博士・WAWI 精神分析家・WAWI 児童青年心理療法家

所属：京都文教大学／一般社団法人京都精神分析心理療法研究所／(有)ケーアイピーピー

著書：『臨床心理学』（共著、培風館）

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる』（監訳、創元社）、F. パイン『欲動、自我、対象、自己』（監訳、創元社）

北川 恵 Kitagawa, Megumi

臨床心理士・教育学博士・Adult Attachment Interview コーダー資格・The Circle of Security program (COS) 実施資格・「安心感の輪」子育てプログラム (COS-P) 研修講師資格

所属：甲南大学文学部

著書：『アタッチメントの実践と応用』（分担執筆、誠信書房）、『アタッチメント—生涯にわたる絆』『アタッチメントと臨床領域』（分担執筆、ミネルヴァ書房）

訳書：D. オッペンハイム、D.F. ゴールドスミス『アタッチメントを応用した子どもと養育者の心理療法』（共訳、ミネルヴァ書房）

北村 隆人 Kitamura, Takahito

精神科医・日本精神分析学会認定精神療法医スーパーバイザー

所属：東洞院心理療法オフィス／太子道診療所精神神経科・子ども心療科

訳書：N. シミントン『分析の経験』（創元社）、N. シミントン『臨床におけるナルシズム』（創元社）、G. O. ギャバード『精神分析における境界侵犯』（金剛出版）他

森 さち子 Mori, Sachiko

臨床心理士

所属：慶應義塾大学／サイコセラピー・プロセス研究所

著書：『症例でたどる子どもの心理療法』（金剛出版）、『かかわり合いの心理臨床』（誠信書房）、『間主観性の軌跡』（共著、岩崎学術出版社）他

訳書：M. サンダーランド『子どもの心理臨床』絵本9巻（誠信書房）、C. ジェニキー著『関わることのリスク』（翻訳監修、誠信書房）

岡野 憲一郎 Okano, Kenichiro

精神科医・臨床心理士

所属：京都大学大学院

著書：『外傷性精神障害』、『解離性障害』、『治療的柔構造』、『脳から見た心』（いずれも岩崎学術出版社）他

鈴木 健一 Suzuki, Kenichi

臨床心理士・博士（心理学）・WAWI精神分析家

所属：名古屋大学学生相談総合センター

訳書：S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる－対人関係学派からみた価値の問題－』（創元社）

鑪 幹八郎 Tatara, Mikihiro

臨床心理士・教育学博士・WAWI精神分析家

所属：京都文教大学名誉教授／一般財団法人広島カウンセリング・スクール理事長

著書：『著作集第1巻 アイデンティティとライフサイクル論』、『著作集第2巻 精神分析と心理臨床』、『著作集第3巻 心理臨床と倫理、スーパーヴィジョン』、『著作集第4巻 映像・イメージと心理療法』（ナカニシヤ出版）他

訳書：H. S. サリヴァン『精神医学は対人関係論である』（共訳、みすず書房）他

横井 公一 Yokoi, Koichi

精神科医・臨床心理士

所属：浜寺病院

著書：『関係精神分析入門』（共著、岩崎学術出版社）

訳書：J. グリーンバーグ& S. ミッチェル『精神分析理論の展開』、S. ミッチェル『関係概念と精神分析』『関係精神分析の視座』（ミネルヴァ書房）

会場案内

キャンパスプラザ京都

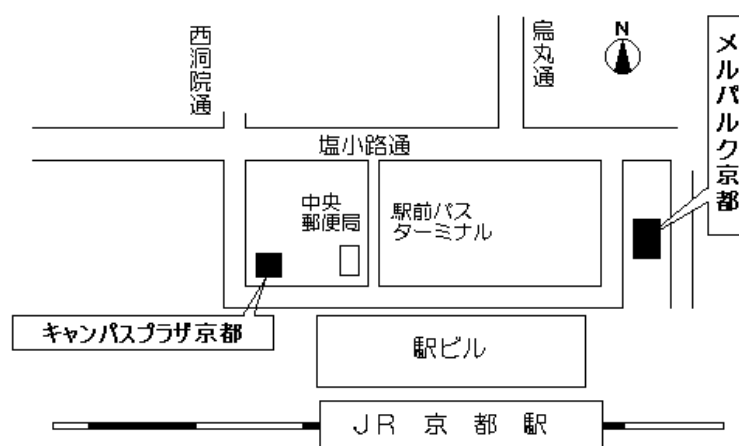
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル

【Tel】 075-353-9111

メルパルク京都

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676 番 13

【Tel】 075-352-7444



コープイン京都

〒604-8113 京都市中京区柳馬場蛸薬師上井筒屋町 411

【Tel】 075-256-6600

- 地下鉄烏丸線四条駅より 徒歩 10分
- JR 京都駅より タクシーで約 10分



※セミナーは「キャンパスプラザ京都」、「メルパルク京都」など京都駅近辺の会場で行います。
※各セミナーの会場は、決まり次第ホームページ <http://kipp-limited.jp> に掲載します。申し込みをされた方には、郵送、e-mail、Fax 等で通知いたします。

＜ 受講申込要領 ＞

対象 臨床心理士、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。
または、それに関わる学生、大学院生。事例の守秘を守れる方。

申し込み方法 ①e-mail
同封の「申し込み用紙」を e-mail に添付、または、必要事項を e-mail にご記載の上、お申し込み下さい (PC の e-mail アドレスをご記入下さい)。受付後、振込先を e-mail にてお知らせするとともに、申込受付票を PDF にてお送りいたします。
②Fax・郵送
同封の「申し込み用紙」に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。受付後、振込用紙と申込受付票をお送り致します。

申し込み期限 「愛着と対人関係精神分析」シリーズ申し込み 第1回開始日の2週間前まで
セッションごとの申し込み 各セミナーの2週間前まで
※定員に達した場合は申し込み期限より早めに締め切りとさせていただきます。ご了承下さい。

申し込み・問い合わせ 〒612-8083 京都市伏見区京町4丁目156番地1 桃山ビル3F
KIPP 桃山心理オフィス内 一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所 研修委員会
Tel&Fax : 075-623-0823 e-mail : info@kippsyoto.org

受講料	「愛着」シリーズ(5回)申し込み	セッションごとの申し込み
	一般 30,000円	一般 7,000円
	学生 25,000円	学生 6,000円

※シリーズ申し込みには「基礎セミナー」は含まれておりません。お間違いのないようご注意ください。

払い込み期限 振込用紙・振込先を受け取り後、セミナー当日1週間前までにお振込み下さい。

- 初回受講時には、申込受付票と郵便振替払込受領証 (またはプリントアウトしたもの) をお持ち下さい。引き換えに名札と研修証明書をお渡しします。
- 一度納入頂きました受講料は原則として返却致しかねますので、あらかじめご了承ください。

会場受付開始時間 講義開始時間の15分前より開始いたします。

*この案内は、過去のセミナー参加者名簿、心理臨床学会名簿、臨床心理士会名簿の情報をもとにお送りしています。以後、案内送付を希望されない方は、恐れ入りますが Fax、e-mail 等でご一報下さい。送付リストよりはずさせていただきます。

*また、お近くに案内の送付を希望されている方がいらっしゃいましたら、事務局にご連絡ください。案内送付リストに加えさせていただきます。